

令和3年度第4回米沢市地域公共交通活性化協議会 会議録（要点筆記）

1 日 時 令和4年1月17日(月) 10:00～10:30

2 場 所 米沢市役所 委員会室

3 出席者

(委員) 青柳秀夫委員、安部徹委員、石山秀一委員、植野みどり委員（オンライン出席）、大河原真樹委員、太田和広委員、佐々木紀子委員（オンライン出席）、澤村和則委員（代理出席 加藤知美首席運輸企画専門官（オンライン出席））、鈴木正幸委員、高澤由美委員、山田記子委員、吉田正幸委員、吉永和雄委員（代理出席 鷲尾仁主課長補佐）

※欠席者：阿部進一委員、今村元一委員、河田亜依委員、黒須敬子委員、佐藤文俊委員、高橋心委員、田中廣太郎委員、手塚剛委員、吉田一也委員

(オブザーバー) 山形県みらい企画創造部 酒井達朗企画調整課長（オンライン出席）

(事務局) 遠藤企画調整部長、神保高齢福祉課長、梅津観光課長（代理出席 堀内課長補佐）、穴澤土木課長、小林都市計画課長、富取地域振興課長補佐、鈴木地域振興課長補佐、菊地主任、佐藤主任

4 会議録

(1) 開会 司会：富取課長補佐

(2) あいさつ 副市長

先日、本市職員が新型コロナに感染した。いろいろご心配をおかけしているが、無料のPCR検査を受けられるという情報をぜひ広めていただきたい。ウエルシア薬局米沢中央5丁目店、クスリのアオキ金池薬局で受けられる。なかなか手強い相手なので、官民一体となって、コロナを克服したいと思う。

本協議会では、皆様から貴重な御意見をいただいているが、特に冬場なので、日頃思ってたっしやること、お感じになっていることについて、御意見をいただきたい。

(3) 議事

規定に則り、大河原会長が議長になり、議事に入る。

①米沢市地域公共交通計画（案）について

事務局が資料1により説明。委員からの質問意見は次のとおり。

委員等：冒頭に事務局から紹介のあった吾妻町町内会のタクシー補助の新聞記事について、こちらは市で把握されて、この取組に参画されていたのか。

事務局：地域独自の取組で、地域の中でまずは考えて進めていた。市としても、今後、様々な地域と話し合いを進めていく中で、この共助の取組をモデ

ルケースとしながらお話させていただくとともに、持続性も大事なのでこういった取組に対する補助を今後考えていければと考えている。

委員等：おっしゃるとおり、こういう取組は非常に素晴らしいと思う。今後どのように支援、横展開していくか、あるいは、こういう地元の方だけが知っているニーズをどうやって取り込んでいくか、また、帰省客の利用をどうするかなどといった話にまで広げていけると先々面白いかと思う。こういった取組は、計画の最後の方にあった、バスやタクシー、デマンド交通でカバー出来ないエリアをどうするかとなったときに、大きな解決策の一つになるだろうと思う。本事例は、昨年国土交通大臣表彰を受けた南陽市の「おきタク」の取組とスキーム自体は同じだが、この取組を支援していく仕組がすでに国や県にもあるので、こういった点もうまく共有しながら、横展開していくのもよいかと思う。

委員等：前回の皆さんから出た意見の中で、ＪＲ米沢駅の構内と、そこからバス乗り場へのサインが非常にわかりづらいという意見があったと思うが、どのように対応するのか。

事務局：計画書 54 ページ、重点事業 1-1-②「米沢駅の誘導サイン等の改善」のところで、駅の中のサインの検討を進めていく。前回の会議では「2022 年度に検討、2023 年度に関係者との調整、2024 年度に設置」というスケジュールだったが、もっとスピード感を持ってやっていくべきだという御意見をいただいたため、まずはこの 3 年間で、年度を区切らずにどんどん進めていければと思っており、まずは来年度にサインの検討から取り組みたいと考えている。

委員等：ＩＣカードの導入について、仕事で電子マネーの決済をするが、10 代から 60 代前半ぐらいまでだと、電子マネーで決済する方が増えてきているが、70 代ぐらいになってくるとなかなか難しい。利用しない理由をお聞きすると、使い方がわからないだけでなく、終活の一環でこれ以上カードを増やしたくないという方が非常に多い。そういう方にも使ってもらうためには、メリットがないと難しいと思う。例えばＩＣカードだと回数券と同じ金額で乗れる、シニア割引や学生割引などの設定で訴えかければ利用が増えるのではないかと思う。待合場所にコミュニティセンターや商店を活用するという話が載っていたが、おそらくその店舗で現金をチャージするということになると思う。その際、若い方はセルフでチャージができると思うが、年配の方だと店員がチャージをしてあげるような形になると思う。その際に「この店舗でチャージができる、こういう風にすればできる」というような、わかりやすい表示があるといいと思う。待合場所に商店を使うのであれば、ＩＣカードの発行や、回数券の販売も検討しているのか。

事務局：ＩＣカードは山交バスのカードを軸にこれから普及を進めていきたいと考えており、いただいた御意見を山交バスと調整しながら進めていく。

運賃の割引についても調整をして進めていく。ＩＣカードの発行、販売、チャージできる場所のＰＲ等については、今後具体的に考えていく予定だったため、いただいた御意見なども参考にさせていただきながら検討していきたい。

委員等：計画書 65 ページの重点事業 5-1-②「バスの乗り方教室の実施」について、対象者に高齢者も加えていただけないか。前回の会議で、免許返納を考えているが、返納したからといって普段乗り慣れていないバスに乗るのは考えにくいという趣旨の発言が委員からあったが、確かに普段、車を運転されている方は、何かきっかけがないと公共交通を使う機会はないように思う。町内会など、皆さんと一緒にバスに乗る機会があれば、普段乗らないような方も公共交通の便利さや、今度乗ってみようかというきっかけになるのではないかと思う。こういった乗り方教室を、お子さんだけではなく高齢者の方も対象に広げていただけるといいと思った。

事務局：重点事業 5-1-②の概要文の中に、小学生「等」という形で高齢者も含めている。小中学生だけでなく高齢者など交通に困っている方を広く対象にしながら乗り方教室をやっていく。

②米沢市地域公共交通計画（案）に係るパブリック・コメントの実施について

事務局が資料 4 により説明。

委員からの質問意見はなし。

(4) その他

委員からはなし。事務局が次回日程について説明。

(5) 閉会

以上